

1. 社員のモラルとモチベーションのアップを考える

経営者や経営管理者が頭を悩ますことの1つに、「社員のモラルやモチベーションが上がらない」ということがあります。**モラルは「志気ややる気」、モチベーションは「動機付けや動因・刺激」と**訳されています。会社は社員に、与えられた課題や役割、職責を果たすということを期待します。社員が積極的かつ挑戦的に仕事と向かい合っていて欲しいのです。しかしひとは消極的な一面も持っています。仕事の課題等に真剣に取り組もうとしない場面もあるでしょう。この逃避的心情が表出化する事を懸念し、会社は必要な対策を講じるのです。

モラルとモチベーションの意味は似通っていますが、根本的な違いがあります。**モラルは本人の内発的な動機付けであり、モチベーションは外発的な動機付けと考えられます。社員の心に情熱ややる気を焚きつけるのが当の本人であればそれはモラルの問題です。会社や上司、同僚、部下等職場環境が大きな比重を占めているとすればそれはモチベーションと呼ばれるのです。**

私の顧問先に建設業を主体としてグループ企業数社を加えると400名の社員を抱える会社(以下にA社)があります。A社との関係は10数年前からです。その時に助言したことの1つに「100年企業を目指しましょう」がありました。A社の今期は74期ですから、創業100年に達するまでにあと四半世紀あります。創業者は90歳まで会社経営に関与し、存命であれば今年に100歳を迎える予定だったそうです。「企業は人なり」の格言があります。74年そして100年と**会社が継続的に繁栄していくには、人材が極めて重要な鍵を握ります。会社を牽引する社員は10年から20年単位で入れ替わります。**愛社精神が新入社員から古参社員まで、そして現場で働く社員から幹部社員まで、砂に水が浸透するように浸潤しなければなりません。そうでなければ、**基幹社員が入れ替わる時期に会社の命脈は絶たれてしまう**でしょう。

A社は一日かけて経営計画の発表会を行います。最初は幹部社員一同を集めての意思統一と決意表明の場です。後半は全社員が参加しての社員研修会です。昨年と今年ではコロナの為に、九州各県の事業所等をネットできなくオンライン研修となりました。

私は毎年出席しているのですが、今年の社員研修会は本当に感激しました。それは会社の社員を大切にしたいという愛情がひしひしと感じられたからです。例年通り経営成績が優秀な部署等への社長賞の発表。ここまでは例年通り。その後個人とグループに対する表彰が始まりました。その**表彰は業績とは関係のない分野まで拡張**されていました。例えば、3ヵ月毎日8000歩を達成したグループと個人、卒煙(禁煙)宣言した個人、無事故・無違反・無災害を達成した個人等々、「**健康で仕事に励んで下さい**」という心からの愛情が滲み出ていました。A社の愛情・想いが社員に伝わらないはずがありません。**社員の心にモラルアップの種火が点火した**に違いない。そう思った私です。

2. 大分県の最低賃金、30円の引上げ(3.79%UP)

「労働基準法では賃金はどのように規定されているのですか」とよく聞かれます。労基法は労働の対償として支払うものを全て賃金とし、給与、手当、賞与等の名称を問うてはいません。仮に入社希望者から「私は時給500円で良いから」との申し出があり、会社はこれをOKとして労働契約を締結したとします。しかしこの合意は最低賃金法により無効とされます。憲法第25条の生存権に抵触するとして、絶対的に否定されるのです。

最低賃金は強行規定であると説明したところで、大分県の今年の**最低賃金が30円UPすることが確定**しました。7月開催の中央最低賃金審議会は各地方最低賃金審議会での審議の目安として28円UPを大臣へ答申していましたが、大分県審議会は更に2円上乗せしたのです。大分県の最低賃金は10月からは822円となります。

政府は**数年内に全国平均で1000円以上とする**事を目指しています。今回の答申で全国平均は930円となりますが、まだ**70円の開き**があります。県内の最低賃金は**数年以内に最低賃金は892円(822円+70円)以上**に必ずなります。最低賃金900円はもう目の前です。経営者の皆さんはその準備と心構えはできていますか？

労働生産性を上げましょう。付加価値を上げる為の投入労働時間数を減らすのです。設備生産性を上げましょう。積極的に設備投資をし省力化を行うのです。鍵は生産性向上です。善は急げです。時間をもうないのです。

3. 忍び寄ってくる“リスク”に備える

コロナ感染者数急増を受けて、東京都他に再度の緊急事態宣言が発出され、東京オリンピックも無観客となり家庭内等少数人数での応援だったと思います。私はワクチン接種が6月中に2回目が終了してほっとしています。

ワクチン接種が進んでいるからか、街角でマスクをしていない姿をチラホラ目にするようになりました。ワクチン接種は新型コロナウイルスに対する抗体を作るものでありますが、絶対に感染しないというものではありません。2度罹患した人も散見されます。例年、冬季に大流行するインフルエンザと同様に、罹患したとしても軽い症状ですむという位に考えた方が良さそうです。

このマスクなし姿に思うことは一つ。**日本人はリスクに対する感度が激しく上下変動する気質を持つ**ということ。「**予想外の出来事はあって欲しくない**」と願い、**最終には「他者にはリスクが顕在化しても自分には掛りかかってこない」と信じ切ってしまう**のです。その為に自分の信念に有利な情報を集めて納得するという**確認バイアスの罠**に容易にはまってしまうのです。

しかし、自分や会社を暗闇の谷底へ落とし入れるリスクは、この瞬間でもひたひたと忍び寄っています。この微小なリスクの動きを感知し適切な行動を取らないと、3.11ではありませんが「**想定外の出来事**」で済まそうとします。**会社経営には「想定外はない」という姿勢で臨むことが、継続的な繁栄への近道**だと思っています。